



バックエンド部会 第55回全体会議

日時：令和3年9月8日（水） 12:10～12:50

会場：日本原子力学会「2021年秋の大会」 オンライン開催

A会場

バックエンド部会第55回全体会議



令和3年9月8日(水)12:10～ オンライン開催

【議事次第】

•部会長挨拶

•令和3年度活動報告

- ① 企画報告(企画セッション、夏期セミナー、PSWG 他)
- ② 広報報告(部会HP小委員会活動、週末基礎講座予告)
- ③ 出版報告(小委員会体制の見直し、部会誌の発行状況等)
- ④ 庶務報告(海外発表助成・研究会支援制度、優秀講演賞)
- ⑤ 会計報告(収入・支出実績)

バックエンド部会第55回全体会議



令和3年9月8日(水)12:10～ オンライン開催

【お願い】

- 昨年同様にWeb開催です。①～⑤の各報告の最後に司会から「～の報告についてご承認いただけますでしょうか？」と会場の皆様に問いかけますので、異議のある方は挙手をしていただき、挙手がなければ承認を得たことにさせていただきます。また、挙手された方は司会から指名させていただきますのでご発言ください。



杉山部会長挨拶



令和3年度活動中間報告

①企画A報告【大会・年会における企画セッション】



【2021年秋の大会】

□ バックエンド部会 企画セッション

[1A_PL] 地層処分に関する安全コミュニケーション

2021年9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 A会場

司会: 杉山 大輔 (電中研)

パネル討論座長: 朽山 修 (原安協)

(1A PL01)なぜ、地層処分なのか？—セーフティケースの役割

草野由貴子 (NUMO)

(1A PL02)セーフティケースへの情報統合—NUMO包括的技術報告書を例として

藤山哲雄 (NUMO)

(1B PL04)安全コミュニケーションに関するパネル討論

朽山 修 (原安協) 飯塚 敦 (神戸大) 下茂 道人 (深田地質研究所)

半井 健一郎 (広島大) 廣野 哲朗 (大阪大) 若杉 圭一郎 (東海大)

【2022年春の年会】

□ 開催日 : 2022年3月16日(水)-18日(金)

場所 : 神戸大学深江キャンパス(神戸市)

企画のアイデア・ご希望がございましたら、
運営小委員会委員までご連絡ください！！

(近日中に部会メールサービスで案内)

①企画A報告【2021年秋の大会 プログラム編成委員】



■ 以下の方々にプログラム編成にご尽力いただきました。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物 処理	金山 文彦(JAEA)	小林 大志(京大) 近藤 陽太(日立GE) 桜木 智史(原環センター) 千田 太詩(東北大) 中村 保之(JAEA) 早野 明(JAEA)
505-2	放射性廃棄物 処分と環境	尾上 博則(NUMO)	
505-3	原子力施設の 廃止措置技術	川崎 大介(福井大)	

(敬称略)

①企画B報告 【第37回バックエンド夏期セミナー】



日時 8月26日(木): 有料セッション

8月27日(金): 無料セッション

開催形態: オンライン開催 (Zoom会議)

参加登録者: 合計157名(延べ263名)

テーマ: 福島第一原子力発電所の事故後10年の歩みと
今後のバックエンドの取組み

8月26日(木): 参加登録者123名

・講演: 4件

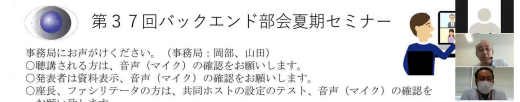
- 東電HD 齋藤典之様
- 北大 渡辺直子准教授
- NDF 加藤和之様
- JNFL 小澤孝様

・ポスターセッション: 8件

- ショートプレゼンテーション
- ブレイクアウトルームにおける意見交換・質疑応答

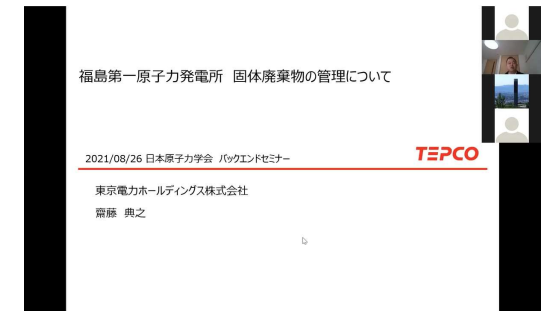
上記の内容について優秀なポスターの表彰を春の年会で行う

開会あいさつ



- 当日の注意事項 (概略版)
- ・Zoomアプリで参加ください (Web版ではホスターの意見交換を行うブレイクアウトルームに入れません)
 - ・Zoomアプリは最新版を使用してください。
 - ・聴講者はマイクをoff、カメラをoffにしてください。
 - ・参加者を「氏名@所属機関」に変更してください。
 - ・当該セッションの座長は「座長: 氏名@所属機関」に変更してください。
 - ・質問は随時チャットで受け付けています。座長宛にチャットで送信してください。
 - ・Zoomの録画・録音・スクリーンショットは禁止しております。
 - ・登壇者、講師、聴講者等、参加者のプライバシーへのご配慮をお願いいたします。

講演



ショートプレゼンテーション (意見交換・質疑応答を別途実施)



①企画B報告 【第37回バックエンド夏期セミナー】



8月27日(金) : 参加登録者140名

環境放射能除染学会連携シンポジウム「除去土壌等の
県外最終処分の実現に向けた技術開発と研究の方向性」

・講演: 5件

- | | |
|---------------|--------|
| - 国環研 | 遠藤和人様 |
| - 除染学会研究会/国環研 | 山田一夫様 |
| - JESCO | 日置潤一様 |
| - IRID/JAEA | 黒木亮一郎様 |
| - JNFL | 小澤孝様 |

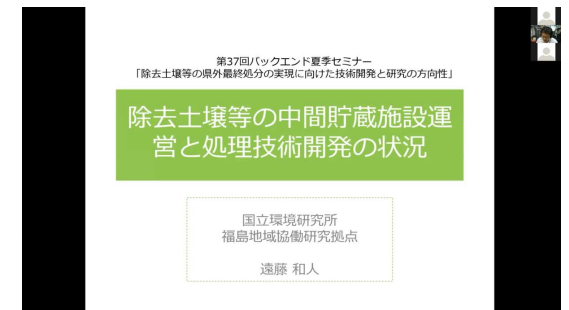
・総合討論:

- | | |
|---------------|--------|
| - 国環研 | 大迫政浩様 |
| - 国環研 | 遠藤和人様 |
| - 除染学会研究会/国環研 | 山田一夫様 |
| - IRID/JAEA | 黒木亮一郎様 |
| - JNFL | 小澤孝様 |

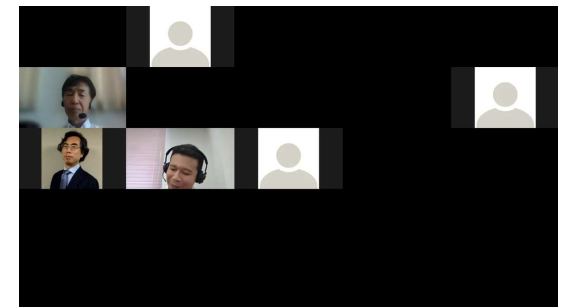
・講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)に掲載予定

・講演再録、セミナー参加記は部会誌次号に掲載予定

講演



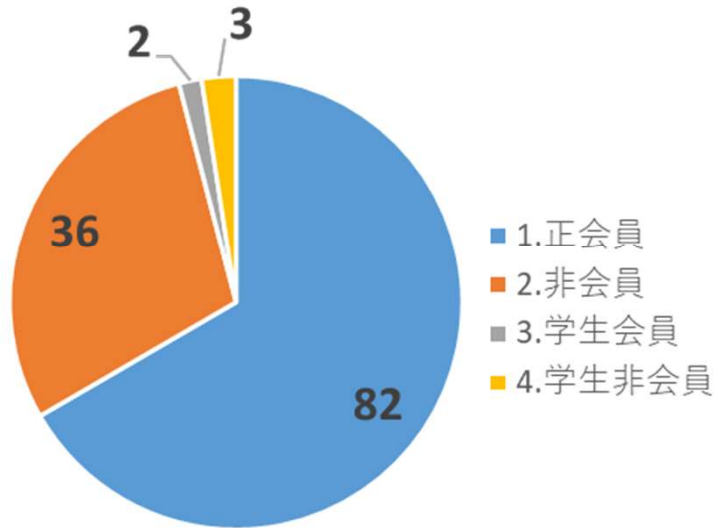
総合討論



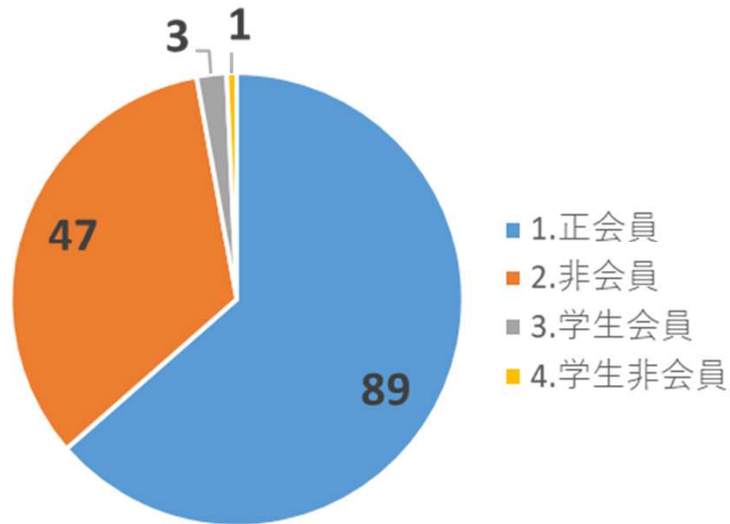
①企画B報告 【第37回バックエンド夏期セミナー】



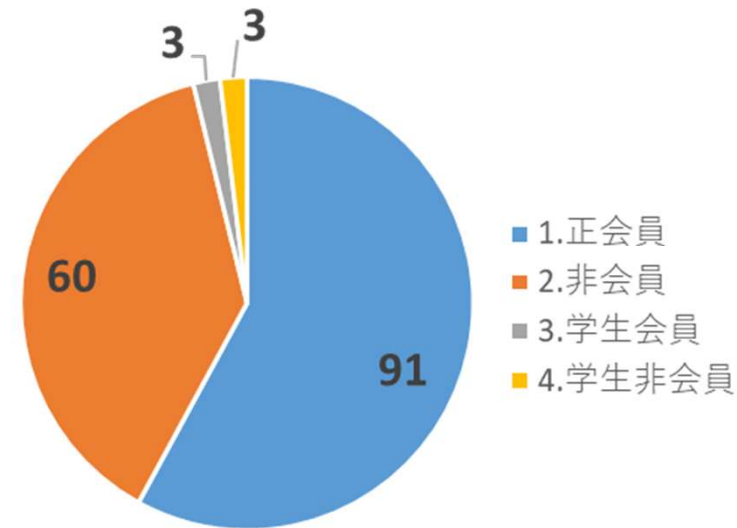
参加状況：次回に向けて



8月26日(木)
参加登録者123名
有料セッション



8月27日(金)
参加者登録140名
無料セッション



全登録者数
合計157名

- ・無料セッションは非会員の参加者が多い傾向
(2日目の無料セッション開催により、参加者を多く呼び込めた)
- ・学生の参加人数が少ない
(大学院入試、試験日程等への考慮を行うこととを検討)



①企画C報告 【PSWG】

□PSWG (Position Statements WG)

- ポジション・ステートメントWG(PSWG)は、日本原子力学会が発信するポジション・ステートメント(PS)について、その必要性、妥当性等について検討し、広報情報委員会に提案する役割を担っている。バックエンド部会の代表として、企画Cの担当者がPSWGの一員として活動している。

- クリアランス【解説】:
 - PSWGのコメントに対応し、改訂版(rev7)をPSWGに上程(2019.7月)
 - 広報情報委員会で審議、了承。HPに掲載済。
 - 昨年度の原子力学会秋の大会のポスターセッションにて解説。

- 廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について【解説】:
 - PSWGに上程(2018.7月)。
 - 分かり易さの観点からコメントを受け、BE部会小委にて改訂。再度 PSWGに上程済。

- 高レベル放射性廃棄物の地層処分、ガラス固化体の性能:
 - 包括的技術報告書の内容を勘案しつつ、今後の進め方について協議中。



②広報報告 【R3年度 部会HP小委員会活動】

1. 部会ホームページの管理・運用

<http://nuce.aesj.or.jp/>

- ・ お知らせ・会議案内：夏期セミナー開催案内掲載
- ・ 部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の公開
- ・ 2020年度バックエンド部会活動報告・部会表彰の選定結果の掲載
- ・ 部会長挨拶・部会長便りの掲載

2. バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：R3年度 13件(3/4～9/6)， 配信宛先数： 439件(R3/9/1現在)

お知らせとお願い

メールの配信開始／停止，アドレスの変更は部会員の皆さまからの申告によって行っています。

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

アドレスの変更があった方，メール配信を希望される方は，広報担当までお知らせください。

e-mail： info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください。)

3. ホームページ小委員会メンバー

榊原 哲朗	原子力機構	広報委員(2020～)	HP更新，メール配信等の窓口，運営小委員会との連絡調整
岩田 孟	原子力機構	広報委員(2021～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰，企画・提案
笹川 剛	原子力機構		部会情報メール メーリングリスト管理，メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理



■ 開催目的・趣旨

- 放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。
- 当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや、新たに業務や研究に携わる方々だけでなく、すでにこの分野でご活躍の方々に、改めて関連する知識を確認されたい方など、広くご参加いただけます。
- 新型コロナウイルスの感染が収束する見込みが立たないため、昨年度同様、本年度もオンラインで開催致します。

■ 日程

令和3年11月12日(金) 9:00頃～17:00頃(予定)

■ 場所

オンライン開催(Zoom ミーティング)

■ 参加費

正会員 1,000円(不課税)、非会員 2,000円(税込)、学生無料



③出版報告 【委員の交代】

昨年度と同規模の体制(16名)

2021年度 役割分担詳細版

役職名	仕事概要	名前	所属
編集長	全体の工程管理	川崎 大介	福井大学
副編集長	査読付き論文ハンドリング	鷹尾 康一郎	東京工業大学
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	湊 大輔	電力中央研究所
	査読なし原稿ハンドリング		
副委員長	委員長補佐+工程管理補助	藤社 進	(株) IHI
出版幹事	原稿(査読あり原稿は査読終了後、査読なし原稿は受領後)の出版(先行公開および部会誌)に向けての事務的仕事の統括	関口 高志	戸田建設(株)
	フォロー	中田 弘太郎	電力中央研究所
編集幹事	レイアウトを統括	北城 諒一	日本原燃(株)
レイアウト担当	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	西尾 光	原子力発電環境整備機構
		持田 泰孝	日本エヌ・ユー・エス株式会社
		中島 均	清水建設(株)
		山田 淳夫	(株) 安藤・間
CD化 J Stage	CD化、J-Stage、会計を統括	石寺 孝充	日本原子力研究開発機構
	論文のCD化	山田 文香	原子力環境整備促進・資金管理センター
	査読付き論文等のJ-stageへの登録	邊見 光	日本原子力研究開発機構
会計担当	支出、収入の会計処理	清水 洋平	(株) ダイヤコンサルタント
HP	HP関連	古川 静枝	電力中央研究所

※敬称略 下線が新委員



③出版報告 【部会誌の発行】

部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol. 28 No. 1 (2021年6月)

→ホームページにて公開中

No2を併せて年末にCDを作成・配布の予定

<巻頭言>

巻頭言 “共有”雑感
杉山大輔

<特集;2020年度バックエンド週末基礎講座>

会議参加記
「2020年度バックエンド週末基礎講座」参加報告
中島貴弘

<講演再録>

地層処分の工学技術および性能評価研究
杉浦佑樹

<会議参加記>

日本原子力学会2021年 春の年会バックエンド部会企画セッション
除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた技術開発と研究の方向性
黒田知真

<会告>

令和2年度バックエンド部会表彰
バックエンド部会 関連行事予定

巻頭言に加え、
講演再録 1編
会議参加記 2編

ご協力いただきました皆様
ありがとうございました



③出版報告 【部会員の皆様へのお願い】

部会員のための部会誌継続のために、ご協力をお願いします

- 積極的な投稿/寄稿（情報発信の場としての活用）

概ね40歳までの研究者・学生の論文は、論文賞のみならず奨励賞の対象となります。

- 査読へのご協力
- 特集テーマのご提案

論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

journal@nuce.aesj.or.jp

<http://nuce.aesj.or.jp/journal:info> で部会誌のご案内

④庶務報告 【支援制度】

【海外発表助成制度】

- 若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- 半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2020年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
下期分(8月10日締切) 応募なし
- 2021年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
下期分(8月10日締切) 応募なし



【研究会支援制度】

- 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- 研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- 会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2020年度実績：応募なし
- 2021年度実績：8月末時点で応募なし



④庶務報告 【優秀講演賞】

- 優秀講演賞を1名選出
- 学生会員対象とした**学生優秀講演賞**を1名選出(2017年秋の大会より)

	バックエンド 対象講演数※	内,学生会員 講演数
2021年 秋の大会	107	25
2021年 春の年会	77	23
2020年 秋の大会	99	15
2020年 春の年会		



※)「放射性廃棄物」、「廃炉(廃止措置)」、「地層処分」のいずれかのワードを含む一般セッションにおける発表

各座長の採点結果に基づき、本大会における学生優秀講演賞、優秀講演賞を選出
⇒ 2021年春の年会、秋の大会の優秀講演賞を2022年春の年会全体会議において表彰予定



通常予算収支（8月末実績値）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	0	旅費交通費	0
受取配分金	343,000	通信運搬費	5,358
		消耗品費	0
		一般外注経費	0
		雑費	330
		支払助成金(事)	0

<小計>	343,000	5,688
<当初予算額>	593,000	900,000
<執行率>	58%	1%
<収支>		337,312

円

- 収入の部:6月発行部会誌への論文掲載がなく、受取掲載料はゼロであったため、当初予算額よりも収入は少ない状況。
- 支出の部:主に部会HP用レンタルサーバー代の支出。部会誌への論文掲載がなかったことから、J-stage登録費などの支出は無し。
- 上期(4月～9月)について、今後の支出予定を考慮しても、上期の支出計画額約23万円を超過することはないと予想されるため、計画通りで問題なし。



セミナー予算収支（9月速報値）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	150,000	会議費	0
		通信運搬費	9,180
		消耗品費	0
		一般外注経費	4,000
		出展費	0
		賃借料	13,200
		雑費	0

※9月末実績として8月バックエンド夏期セミナー分を加算して速報ベースとして作成

<小計>	150,000	26,380
<当初予算額>	1,760,000	1,453,000
<執行率>	9%	2%
<収支>		123,620

円

- 今年度も夏期セミナーおよび週末基礎講座はWEB開催であるため、収入および支出については当初予算額よりも大幅減となる。
- 夏期セミナーについては、約12万円の黒字となる見込み。
- 週末基礎講座についても、昨年度WEB開催実績を踏まえると、赤字とはならない見込み。
- 年度収支としても黒字となる見込みであり、問題なし。



全体収支		全体収支	
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常予算	343,000	通常予算	5,688
セミナー予算	150,000	セミナー予算	26,380
<合計>	493,000		32,068
<当初予算額>	2,353,000		2,353,000
<執行率>	21%		1%
<収支>			460,932

円

- セミナー収支について、当初計画では約30万円の黒字を想定していたが、約15万円減となる見込みである。しかし、今年度は海外発表助成の申し込みが無かったこと、会議体のWEB開催による旅費の支出減などにより、約30万円の支出減が見込まれることから、下半期の支出予定を考慮しても、年度収支は黒字となることが予想される。
- 引き続き適正な予算管理に努める。



Fin.